

マレーシア国民大学の副学長らが本学を訪問

【概要】

1月7日、岐阜大学はマレーシア国民大学（UKM）学生センターからNorinsan Kamil Othman副学長をはじめとする6名の訪問団を迎えました。今回の訪問は、2月にUKMで実施予定の職員海外実務研修において、本学職員の受け入れを予定していることを契機としたものです。UKMは、岐阜大学が重点的に取り組んでいるジョイント・ディグリープログラムを設置している、重要な協定校です。

学長表敬訪問では、2025年9月に吉田学長がUKMを訪問し、Sufian Jusoh学長との面談や学生・研究者や教職員の交流拡大について意見交換を行ったことが紹介され、両大学間の更なる協力強化への期待が述べられました。

その後、リム・リーワ 副学長（国際担当）および教育推進・学生支援機構の高橋周平 副機構長から本学の取り組みの紹介がありました。さらに航空宇宙生産技術開発センターを視察し、本学の最先端の研究設備を紹介しました。

学内視察などには、UKMでの職員海外実務研修に参加予定の本学職員や、本学に留学中のUKM学生も同行し、学生交流の拡大や今後の協力、岐阜大学での学生生活などについて活発な意見交換が行われました。

今回の交流を通じて、両大学の学生・教職員間の連携が一層深まり、ジョイント・ディグリープログラムを含む国際交流のさらなる発展が期待されます。



マレーシア国民大学訪問団との記念撮影



記念品を交換する吉田学長と
Norinsan Kamil Othman副学長（学生担当・同窓会担当）